

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年7月24日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・4歳児「ひまわりに遊びに来た虫を描こう」

<テーマ設定理由>

子ども達は、自然に親しむ活動の一環としてひまわりの種を植え、日々水を撒いてお世話をし、芽が出たり、葉が育ってきたりした様子を観察してきました。大きな花が咲いた時の感動を子ども達が味わうことができました。その感動をひまわりに花を描く活動として取り組んできました。今回は、そのひまわりの花の周りにいろいろなものを書いて表現活動を楽しみました。

2. 活動スケジュール

4月下旬にひまわりの種をまきました。それ以後、子ども達が水撒きをしました。だんだん育ってくる過程を楽しみ、開花してから、夏祭りのお神輿づくりのため、ひまわりを模造紙に描きました。今回はそのひまわりにクレヨンで絵を描きます。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

模造紙に描いたひまわり。新聞紙（シートとして）。クレヨン。
開放的に活動を行いたいため、ホールで実施する。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・自分で考えたこと、想像したこと、経験したことをクレヨンで描く。
- ・ひまわり畑にあるもの、何が遊びに来たかななどの想像を膨らませて、ともだちとやりとりをする。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

T: みんなで作ったひまわりの花に何が遊びに来たら、ひまわりさんが喜ぶかなってみんなが言ってたんだよね。
A: 何が遊びに来そうかなあ。
B: びよんびよん虫?
C: あ、チョウチョウ!
D: あとさあてんとうむし、あとカブトムシ、あぶらむし・・・
B: かたつむりはいないよ、地面の中だよ
T: みんなで仲良くぶつかったりしないようにしないとね。
A: ねえねえ雨とかもいいんじゃない?
T: 雨も喜ぶかもね。確かにそういうのを思い出してここに描いてみようか?
B: てんとう虫とかダンゴムシとかチョウツとか描いてもいいのかな? バッタとさあ、おんぶバッタとかさ、小さいバッタとかがいっぱいいる。
T: あれ?、なにそれ?
C: 土! (ひまわりの下の部分に虫ではなく土を描いている)
T: 確かに! Oちゃんも土を描いたの?
C: 最初から考えてたの。
T: 土から生えてたね。
D: なんでみんな土なの?
T: ほら、自分で種まいたからじゃない?

B: じゃあ雨も!
T: 雨も降ったらいいと思う。Bちゃんそれ何?
B: お水 (ひまわりに水を撒いている)
T: お水あげないとね。
E: ねえ僕、今、ヘラクレスオオカブトを飼っている。
C: ひまわりのペラペラを食べた。もう一匹来たの?
B: リンゴが咲くの。
A: いいね。りんごいいじゃん。 ODE: いいじゃんいいじゃん。
A: 雨と言えば黒い雲。
C: すごいねめっちゃでっかいりんごがあって。
D: 桜も大好き、あとぶどうも大好き。さくらんぼとかいっぱいあるよ。
T: なんか美味しそうなひまわり畑だね。
A: あのさあ Aちゃんてんとうむし食べたことあるんだよ。めっちゃ美味しくないし。
D: ちゅうりっぷも咲く!?
C: 太陽も描く!
C: お日様の太陽をさ、眩しいかな?



5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

- 子どもの育ちへの気づきについて
 - ・ひまわりの生長を継続して見守ってきた経験から、「葉っぱが増えた」「大きくなった」など変化に気づき、絵に取り入れようとする姿が見られ、自然への関心や観察する力が育っていると感じた。
 - ・ひまわり畑に「虫」「雲」など、自分の経験や想像を重ねて描く子が多く、これまでの体験が結びつきイメージを広げて表現する力が育っていることに気づいた。
- かかわり・社会性への気づき
 - ・友だちの描いたものに興味を示して「それなに?」「ほくも描きたい」と会話が広がり、互いの表現を認め合いながらまねしたりアイデアを出し合ったりする姿があり、協同性や伝え合う力が高まってきていると感じた。
 - ・一つの大きな模造紙を共有する中で、「ここ使っている?」「じゃあこっち描くね」など場所を譲り合う姿も見られ、見通しを持って活動したり、相手の気持ちを考えて行動しようとする姿が育ってきていると受け取った。
- 環境・援助に関する気づき
 - ・ホールという広い空間で伸び伸び描けたことで、体を大きく動かしながら線を引いたり、寝そべてじっくり描いたり、子どもそれぞれが心地よい姿勢で表現できることを実感し、今後も広い描画環境を意識していきたいと感じた。
 - ・ひまわりの育ちを振り返る写真や実物をそばに置くと、具体的なイメージを持って描きやすくなっていたため、活動前に自然観察の場面を共有したり、言葉かけて思い出させたりするなど、探究の過程と表現活動をよりつなげる工夫が必要だと分かった。
- 今後への課題・展望
 - ・想像が膨らまず描くものに悩む子もいたため、「どんな音が聞こえそう?」「だれが遊びに来るかな?」など、子どもの思いを引き出す問いかけをさらに工夫し、一人一人の表現意欲を保障していきたい。
 - ・継続して関わってきたひまわりの活動が子どもの主体的な学びにつながっていることから、今後も栽培活動や季節の自然に触れる経験を計画的に取り入れ、その過程を子どもと一緒に振り返る機会を設けていきたい。